口絵 1: 梁山断層（韓国東南部）の活断層地形とトレンチ調査

Active Fault Topography and Trench Survey in the Central Part of the Yangsan Fault, Southeast Korea

写真 1 韓国東南部の地形模型

慶北大学校師範大学地理学教室が作成した地形模型であり、中地形的な特徴がよく表現されている。中央やや左に大邱、右上部に浦項、中央下部に釜山が位置する。浦項の西方から、釜山の西方にかけての直線状谷に沿って梁山断層が通るが、平行・斜交する断層も伴われている。

写真 2 慶尚南道蔚山郡三南面水南里付近の高位段丘面と低断層崖

太和江とその支流である酌川川が形成した開析扇状地性の高位面（本文図 4 左）を東方に望む。この面上には南北方向に走る比高約 5~6 m の低断層崖（写真中央）がみられる。

写真 3 蔚山郡三南面芳基里付近の中位段丘面を切る低断層崖

中位面を切断する比高約 4 m の低断層崖（写真中央左）がみられる。トレンチ掘削を行なった高位段丘面が後方（南方）に見えるが、これらを連ねる梁山主断層は北北東-南南西方向へほぼ直線状に走る（本文図 5 下部・図 6 上部）。

写真 4 建設中の道路とトレンチ掘削の様子

梁山郡下北面薄池里で建設中の道路面を掘削した。北方を望む。梁山主断層はこの位置を通るので、断層を東西に横切るトレンチが掘られ、この断層調査が可能となった。

写真 5 トレンチの南側壁面中央部

南側の壁面はほぼ垂直、底面はほぼ水平である。格子は0.5 m 間隔に張られた。中央部に直立する断層面が見られ、東側に伴われる破碎帯もその断面（本文図8下）がよく観察された。

写真 6 トレンチの底面に表われた断層

トレンチの底面でも断層（面）が表われ、水平の断面が観察された（本文図9）。

韓半島東南部に位置する梁山断層系は、北北東-南南西方向へ約200km にわたってほぼ直線状に連続し、地形・地質的にもきわめて明瞭である。韓半島ではもっとも大規模な断層群である。この中部にあたる慶尚南道蔚山郡彦陽面から梁山郡下北面付近にかけて、開析扇状地性の段丘面群が分布するが、これらを切断する東側上がりの低断層崖が断層線沿いの各所で確認された。

下北面薄池里では高位段丘面を切断する低断層崖があり、ちょうどその場所を横切って新しい道路が建設中であった。ここではほぼ東西方向にトレンチを掘り、梁山（主）断層の調査を行なった。断層面はほぼ垂直であり、幅広い断層破碎帯が伴われている。礫層中の断層粘土や偏平礫の回転、上述の地形的特徴などからみて、梁山断層系では右横ずれの運動が卓越していると推定された。（本文参照）

（岡田篤正撮影）

（Photos by Atsumasa Okada）